

JAより大切なお知らせ

今年は**トビロウンカ**の被害を出さないために！！

広島県でのトビロウンカの飛来は、7月5日時点では確認されておられません。しかし、他県では早い時期から確認をされているところもあり、広島県も時間の問題と思われるます。

下記の対策を参考に早めの対策をお願いします。

①圃場の観察

水田内で局所的に分布し、**イネの株元で増殖**します。このため、畦近くの水田周辺部分のみを調査しただけでは内部の局所的な発生を見逃してしまいます。できるだけ水田内部や周辺部など複数力所を確認してください。イネの株元をたたき、粘着板や黒色の下敷き等を使って受けうるることによる調査が有効です。

トビロウンカ雄	トビロウンカ 雌（長翅）	トビロウンカ 雌（短翅）
		

②出穂期前後の防除の徹底

品種により出穂時期が異なりますので、**稲作暦を確認の上**散布をお願いします。

出穂前			出穂後	
イモチエース スタークル粒剤	ワイドパンチ 豆つぶ	ビームバシボン DL 粉剤	スタークル粒 剤・豆粒	ラブサイドスタ ークル粉剤 DL
				

※航空防除などを利用されている場合は、この限りじゃありません。

③追加防除

本年は追加防除を行なわないようにしたのですが、備えあればということで下記の殺虫農薬は準備しております。

スタークル粒剤	スタークル豆粒	スタークル粉剤DL	トレボン粉剤DL
			

▽再確認

トビイロウンカの生態について

トビイロウンカは、日本で越冬できない（1月平均温度16度以上で可能）ため、梅雨期に中国大陸から風に乗って飛来し、日本に飛来後、世代を繰り返して年3～4回発生します。成虫寿命は約1か月で、茎に数～20粒ずつ産み込み、7～8日でふ化し、幼虫は株元に群れ2週間で成虫になります。少数の飛来でも世代を重ねて増加し、9～10月に多発するので「秋ウンカ」と呼ばれます。

本種はもともと熱帯地域に生息しているので、一般的に温度が高いほど成育が早く、短期間で増殖を繰り返し、夏の気温の高い時期は1世代を繰り返すのに1か月もかかりません。

広島県では例年では7月10日前後に確認されております。

カメムシ類といもち病にも注意を！

本年はカメムシ類の発生も多く感じており、またいもち病の発生しやすい気象条件ですので**出穂前後の防除**を行なうようにしてください。

JAでは、

トビイロウンカに関わらず、定期的に水稻の生育・病害調査を行っております。引き続きご留意いただきたい情報は、お伝えさせていただきますのでお願い致します。

詳しくは、お近くの経済センター・JAグリーン及び資材店舗へお問合せください。